

CLAIR トピックス

——最近のクリアの動きを短くまとめて紹介します



ロンドン事務所

「英国 JETAA 年次総会 (JETAAUK AGM)」に参加しました

2026年2月28日から3月1日にかけて、英国 JETAA 年次総会（以下「AGM」といいます。）に参加しました。AGMは、各 JETAA 支部が 2025 年度に実施した事業および 2026 年度に実施予定の事業計画を共有するとともに、会計状況の報告や英国代表役員を選出などを行う会議です。本年度も昨年度に引き続きクリアロンドン事務所で開催され、英国内各支部の役員、クリアロンドン事務所職員、在英国日本国大使館の担当者など、計 23 人（オンライン参加者を含む）が参加しました。

クリアロンドン事務所からは、助成金の適正な執行に向けた使途管理などに関する連絡を行うとともに、サウス支部の活動本格化に向けて意見交換を実施しました。在英国日本国大使館からは、JET プログラム 40 周年に向けた記念事業に関する協力体制が示されました。

AGM 2 日目には、JETAAUK が招へいたグレートブリテン・ササカワ財団および日本学術振興会から、それぞれ団体概要と助成事業の紹介があり、JETAA の活動を一層拡充していく可能性について意見が交わされました。

本年次総会は、JETAA 各支部役員と直接意見交換できる貴重な機会であり、JETAA 各支部が組織の活性化に向けて尽力されていることを改めて確認できました。今後もクリアロンドン事務所として、各支部への支援および連携を一層強化してまいります。



AGMの様子



集合写真



シドニー事務所

インターンシップ研修で海外の自治体行政を学びました！

クリアシドニー事務所では、職員研修の一環として、当事務所での勤務が2年目となる職員が、オーストラリア又はニュージーランドの自治体などの行政関係機関で、インターンシップを経験しています。2025年度は2人の職員がそれぞれ、豪州内の地方自治体、州政府でインターンシップを行いました。

1人は、ニューサウスウェールズ州ガネダー・シャイア・カウンシルを訪問し、廃棄物処理行政や獣害対策について学びました。廃棄物処理施設のほか、広大な行政区の中で、戸別回収の対象外の区域の住民のごみを受け入れて収集する中継施設を見学し、ごみの受け入れから分別、集約、処理に至るまでの対応や、日本との違いについて、意見交換を行いました。併せて、豪州の獣害対策に関する見識を深めるため、農地や作物を荒らす野生化したブタによる被害が課題となっている地域の農家を訪問し、実際の対策状況を伺いました。

もう1名は、Local Government Professionals Australia NSW を訪問しました。同団体はニューサウスウェールズ州内の地方自治体職員の研修機関であり、州内の自治体職員向けに多彩な研修や専門プログラムを提供しています。訪問時には、リーダーシップ研修や自治体ガバナンスをテーマとした人材育成プログラムについて説明を受け、個々の自治体の枠を超え、職員の専門性向上やキャリア形成を横断的に支援する仕組みが構築されていることを学びました。



ガネダー・シャイア・カウンシル職員との記念撮影



Local Government Professionals Australia NSW 職員との記念撮影



ニューヨーク事務所

カリフォルニア州での高知県の活動を支援しました

2月、カリフォルニア州にて高知県産品のフェアおよび日本酒セミナーが開催されました。

県産品フェアは高知県主催で、同州の日系スーパー「ミツワマーケットプレイス」サンノゼ店およびコストメサ店にて実施され、高知県の食品事業者も参加しました。一方、日本酒セミナーは高松国税局が主催、高知県の共催のもと「ミヤコ・ハイブリッド・ホテル トーランス」で開催されました。クリアニューヨーク事務所の職員は、サンノゼ店でのフェアおよび日本酒セミナーの運営を支援しました。

サンノゼ店のフェアは、ユズや野菜のドレッシング、ユズ果肉入りのシロップ、ユズアイスなど、高知県特産のユズをふんだんに使用した多彩な商品が並びました。現地でのユズの知名度は高く、詳細な説明をせずとも次々と手に取っていく来場者の姿が印象的でした。

また、日本酒セミナーは、在ロサンゼルス日本国総領事館の神谷直子首席領事による開催あいさつの後、高松国税局の小松鑑定官より日本酒および四国のお酒についての解説が行われました。さらに高木酒造代表取締役であり高知県酒造組合理事長も務める高木直之氏が登壇。高知県独自の酒米や酵母の説明、中でも高知伝統のお座敷遊び「はし拳」の実演を交えたプレゼンテーションでは、会場が大きな笑いと熱気に包まれました。



サンノゼ店に商品が並んでいる様子



はし拳の実演



パリ事務所

ウェビナー「フランスの『親をすることへの支援』 子育てしやすい制度づくり」を開催しました

クリアパリ事務所は、2026年2月5日、フランスで子ども家庭福祉の研究を行っている安發明子人間科学博士をお迎えし、「フランスの子育て支援制度」をテーマにしたウェビナーを開催しました。

本ウェビナーでは、フランスの子育て支援の方針として、「子供が“開花”し、親がしたかった子育てができる」環境づくりが重視されていることが紹介されました。フランスでは、子育てを母親一人に負担させないよう、妊娠届をオンラインで提出した段階から、医療・福祉・行政などの専門職が情報を共有し、常に支援できる体制が整えられています。

また、フランスでは「子供の権利を保障すること」が大前提とされており、各種支援は親へのサービスという位置づけではなく、子供の権利を守るための仕組みとして構築されていることが説明されました。

さらに、パリ市役所の事例として、窓口を一本化することで利用者をたらい回しにしない体制が整備されていることや、最初に対応した担当者が問題解決まで関わる、「人と人」がつながった支援が重要であることが説明されました。講演の最後には、子供が幸せに育つ社会を構築するためには、専門職の育成と発展が重要であることが強調されました。

参加者からは、「フランスの人権意識の高さがよくわかった」「日本でも利用者に最後まで寄り添う仕組みづくりをしたい」といった感想が寄せられました。

クリアパリ事務所では、今後もフランスなどで活躍する専門家をお招きし、日本の自治体に役立つ情報を、ウェビナーなどを通じて発信してまいります。



発表を行う安發明子博士



シンガポール事務所

シンガポール事務所所管国の自治体幹部 10人が三重県松阪市を訪問

令和8年2月1日から7日にかけて、クリア本部主催の「海外自治体幹部交流協力セミナー」を開催し、シンガポール事務所所管国のうち9カ国から10人が参加しました。

本セミナーは、海外の自治体など幹部職員を日本へ招へいし、日本の地方自治の現状や課題に関する講義や視察、意見交換を通じて相互理解を深めるとともに、人的ネットワークの構築を図ることを目的としています。今回は、東京で日本の地方自治制度や各種取り組みに関する講義を受けた後、三重県松阪市で地方交流事業を実施しました。

松阪市では観光施策や地域資源の活用事例について紹介を受けたほか、松阪牛や松阪茶などの特産品の説明を受け、実際に味

わいながらその魅力を体感しました。また、松阪もめの着付け体験も行われ、地域文化への理解を深める機会となりました。意見交換では、ハラル対応の充実や松阪牛の牧場見学など体験型プログラムの充実に関する意見も寄せられ、今後の施策検討に資する有意義な機会となりました。本事業を契機として、クリアと連携した海外活動や自治体間交流のさらなる広がりが期待されます。



松阪茶について説明を受けている様子



所管国の自治体幹部との意見交換の様子



ソウル事務所

韓国の大学で鳥取県テーマの卒業制作に向け出前授業を実施

クレアソウル事務所は、2026年3月、韓国・大田市に所在する又松（ウソン）情報大学日本外食調理学部で、鳥取県に関する出前授業を実施しました。同学部では、卒業制作プロジェクトとして「食パラダイス鳥取県」をテーマに料理作品を制作し、6月に展示発表会で発表する予定です。本出前授業は同プロジェクトの事前学習の一環として実施されたもので、授業では鳥取県の食文化や観光資源、地域の魅力などを紹介しました。

学生たちからは、鳥取県の特産品や郷土料理、地域の祭りなど、多くの質問が寄せられ、鳥取県を知ってもらいたい良い機会となりました。クレアソウル事務所では、今後もこうした機会を通じて日本の地域の魅力を発信し、日本の地域の認知向上につなげていきたいです。



大学での出前授業の様子



北京事務所

天皇誕生日祝賀レセプションに参加しました

2026年2月27日、北京の在中国日本大使館で「天皇誕生日祝賀レセプション」が開催されました。

今年のレセプションは「食」をテーマに実施され、当日は20の自治体が出展し、各地の観光名所や名産品を紹介するとともに、大使館と連携して郷土料理も提供しました。また、日本貿易振興機構（JETRO）や複数の日本企業もブースを出展し、日本の産品やコンテンツの魅力を発信しました。会場内ではスタンプラリーも実施され、来場者は複数のブースを楽しみながら巡り、日本の文化や食に触れていました。

クレア北京事務所は、日本各地の観光パンフレットを配布したほか、公式SNSであるWeChatアカウントのフォロワーを対象に記念品をプレゼントし、多くの来場者が訪れました。

当日の来場者は約900人に上り、在中国の日本企業関係者、各国大使館関係者、中国側関係者など、多くの来場者に日本各地の魅力のアピールする機会となりました。



会場の様子



クレアブースの様子



交流親善課

国際儀礼（プロトコール）・海外調整実務セミナーを開催します！

国際関係業務に携わる自治体職員の知識向上を目的として、オンラインによるセミナーを開催します。今年度は、毎年恒例の国際儀礼（プロトコール）セミナーに加え、新たに自治体における海外調整実務に関するセミナーを開催します。

第1部「プロトコールセミナー」

- ・講師：外務省大臣官房儀典総括官室（講師調整中）
- ・内容：国際儀礼（プロトコール）の基礎知識を学ぶセミナー
- ・日時：2026年5月中旬（予定）（Zoom）

第2部「自治体における海外調整実務研修」

- ・講師：東京都 小松俊也氏
- ・内容：海外都市との交流に必要な調整実務を学ぶ研修
- ・日時：2026年5月下旬（予定）（Zoom）

詳細・参加登録はホームページ

(https://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/online_seminar.html)
で順次ご案内します。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



ホームページ
二次元バーコード



経済交流事業部

プロモーションアドバイザーを派遣しました！

クリアでは、自治体の海外プロモーションを支援するため、専門的知見、ノウハウ、経験をもつ専門家（プロモーションアドバイザー※以下、「PA」）を派遣する事業を実施しています。ここでは、2025年度の派遣実績として、兵庫県朝来市への派遣事例をご紹介します。

近隣の城崎温泉や姫路城には多くの外国人観光客が訪れている一方、朝来市では市内の竹田城跡でも外国人観光客は1割弱という状況。外国人に対する情報発信や、まず行うべき受入対策などについて助言を希望されていました。この課題に対し、PAとして派遣された株式会社インバウンドにつぼんの小野秀一郎氏は、滞在時間延長と消費単価向上には宿泊施設整備やアウトドアイベントの実施が有効と提言。市場分散の観点でターゲットは現時点で絞らず推進すべきとしました。また、情報発信は多言語化、毎日の継続発信、広告投資やインフルエンサー活用が重要と助言しました。

市内の分散型ホテル整備の推進で対応に苦慮していた朝来市では、ターゲットをあえて絞らないという発想に驚きつつも納得されたようで、情報発信でもその重要性を改めて認識し、今後の官民一体での外国人観光客誘致に向け、有意義な派遣となりました。

【お問い合わせ】経済交流課 Tel：03-5213-1726 Mail：keishin@clair.or.jp



市内観光施設視察の様子

多文化共生課

JIAM 共催研修に参加して、外国人と地域をつなぐ担い手になろう！

クリアでは、日本に住む外国人に関する現状や課題への理解、多文化共生社会の実現に向けた事例や知識の習得、多文化共生推進の担い手同士の連携促進を目的として、全国市町村国際文化研修所（JIAM）と共催で多文化共生研修を行っています。

本研修では、「多文化共生の地域づくりコース」や「災害時における外国人への支援セミナー」など、4つの研修を実施しています。また、研修環境費などの助成も行っています。（助成対象者には条件があります）

専門知識の習得やスキルアップ、ネットワークの構築を目指し、ぜひ積極的にご参加ください。

※研修の詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.jiam.jp/workshop/list.html?y=2026>

■お問い合わせ 多文化共生課

Tel：03-5213-1725

Mail：tabunka@clair.or.jp



2025年度 JIAM 共催研修の様子

JET プログラム事業部

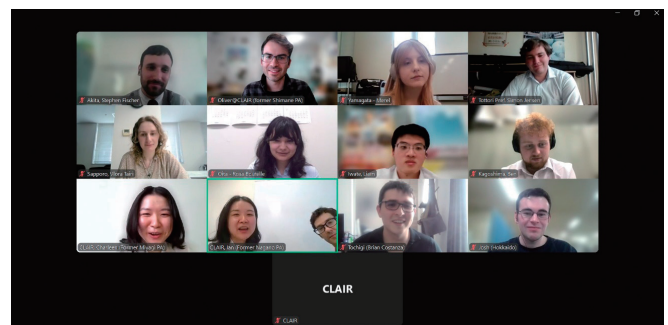
PA 交流部屋を毎月開催しています

JET プログラム事業部では、毎月下旬にPA（取りまとめ団体アドバイザー）を対象としたオンライン交流会「PA 交流部屋」を開催しています。JET プログラムでは、全国の都道府県および政令指定都市に、PAとして日本人担当者とJETプログラム参加者がそれぞれ1人以上配置されており、現役参加者や任用団体への情報提供、相談対応、オリエンテーションや研修の企画など、さまざまな業務を担っています。

PA 交流部屋は、PA 同士が業務上の課題やその解決策をディスカッションしながら共有し、JET プログラム参加者へのサポート向上を図ることを目的としています。毎回、全国から10～15人ほどのPAが参加しています。

2月に行われた交流部屋では、クリア職員の進行のもと、「イベント企画」と「専門的能力開発」をテーマに、活発な意見交換が行われました。これまでも、ワーク・ライフ・バランス、オンライン資料、職場の人間関係、季節に応じたサポート、JET プログラム終了予定者への支援など、多岐にわたるテーマを扱ってきました。

現役 JET プログラム参加者を支える重要な存在であるPAですが、PA 同士のサポート・ネットワークも欠かせません。気軽に意見を交わせる「PA 交流部屋」が、PA 同士のつながりを築く場として今後も活用されることを期待しています。



PA 交流部屋の様子